

夏期の幼児衛生

—— 日本幼稚園協會 五月講演會に於ける講演筆記 ——

警視廳防疫課長
醫學博士 井 口 乘 海

夏の病氣と言へば胃腸病が一番多いのであります。殊に日本人はお腹一ぱいづめ込まないに承知出来ないで困るんでありますが、殊に女の人はそうなのです。

夏の胃腸病は、小さい子にまつて一等恐ろしいのは疫痢であります。そこで此代表的な疫痢の症狀や手當法、原因等をお話致しますが、その間に胃腸病全體についての豫防法や何かを自然に御理解下さる事と思ひます。

東京に於ける赤痢、疫痢の患者数は毎年非常な勢で増加致しまして、昭和元年と昭和十年と比較致しますると約五倍の増加を示してゐます。文化が進み衛生思想が發達したのにと思ひますけど、併し數が殖えたからと云つて悪い事ばかりでもないのです。警察でなんかもよく母の會と云ふのを催して、お母さん達に集つて貰つて、疫痢の症狀とか手當法などを話します。ですから子供が病氣になつた時、熱が出て、便が變だと思ひますと、直ぐお頭を冷やして、ヒマシ油を飲ませて、醫師の來診を求めるとか、或はタクシーを拾つて傳染病院に駆け込むのです。醫師が見ますと確に疫痢ですが、は入つて來たものを今更、正當の手續きを経てないから戻れと云ふわけには行かぬ、まあくゞと云つた調子で入院さしてしまふのです。病院の方から云へば駆け込み入院、病人の方から云へば飛び込み入院と云ひます。之でも分る様に今頃のお母さんには、傳染病を隠さうと云ふ氣がてんで無い、こんな事がまあ、外へ現れた數としては多くなつた原因かと思ひます。よ

警視廳管内赤痢(疫痢)患者數並死亡率

年 次	細別			
	赤痢患者數	同上の内 疫痢患者數	赤痢全體 死亡率	疫痢のみ の死亡率
昭和元年	三・二八三	一七九二	五〇・三五	七四・八三
昭和二年	六・二〇二	三二五七	四七・九四	六七・八八
昭和三年	八・二七一	四三八八	四二・二二	六三・六一
昭和四年	九・四七三	四五六四	三九・二六	六三・四五
昭和五年	一一・〇四一	五四五八	三五・七三	五七・一三
昭和六年	一〇・九四七	五二九五	三三・四二	五四・〇七
昭和七年	一一・五八三	五九〇三	三二・六九	五〇・七二
昭和八年	一五・一〇四	七〇七三	二九・五二	四八・五八
昭和九年	一四・五二七	六五四四	二五・六三	四三・三五
昭和十年	一六・九五七	七二六六	二三・〇六	四〇・三二

〇%に降りました。手當が早ければ死亡率が少いのであります。

疫痢の原因は赤痢菌であります。よく赤痢のお母さんがある。其の子供が疫痢になり、疫痢の子供を看病して赤痢になるお母さんがあります。弱い體質の子に多く、風をひき易い子、腺病質の子は、腸の粘膜も弱いので自然この病氣に罹り易い傾向を持つて居ります。割合にいゝ家庭に多いのでありますが、之は食物に氣をつけないのではなくて、弱い體質の

く小兒科の醫者達から文句を云はれます。君達あまり衛生思想を吹き込むものだから、俺達の仕事は届出だけの用事で、謂はゞ届出ブロカーみたいなものだけ。

火事は最初の五分間と言ひますが、疫痢も實にそうで、最初の手當が早ければ死亡率が少いのであります。

では此疫痢患者の發生は何月に多いかと言ふに六、七、八、九の四月即ち夏季に多く、年にして言ふに三歳がかなり多くなり四歳が一番多い、五歳が四歳より少し減つて三歳と同じ位、六、七歳は漸次減少するのであります。死亡率は昭和元年に七四%であつたのが、昨年はグーツミ減じて四

子が多い云ふ事に依るのであります。よく便秘をしたり、下痢をしたり、云ふ子に多いのであります。

誘因としては過食、食べ過ぎる云ふ事は實にいけないのであります。たゞへ消化のいゝものでも食べ過ぎは悪いのであります。それから、同じ分量でも夜寝る前さか、疲れてる時には過食になるのであります。時き場合によつて過食になつたり、ならなかつたりするのであります。

次の誘因は冷腹、世の中には上の御子さんを疫痢で亡くされた云ふのに、下の子は見ると、何にもお腹に巻かずにゐるお母さんがありますが、こちらが冷々してしまふ事がよくあります。腹巻は、フランネルなぞをお腹へぐるぐる巻いてるのが多い様ですが、夜中に見ますともう胸の方へ上つてしまつて、胸巻になつてゐます。こんなのでは却つて呼吸を妨げて害がある位のものであります。こうでなく、股でひつかゝつて上に釣り上らないズ羅斯式のものでない云、さうしてもいけません。相當に暑い時期ですから夜中に布團をはいでも大丈夫な様に、しつかり巻いてお腹の冷えない様にしておかなければいけません。それから小さい子は太股をも冷してもいけませんね、股の所で冷えきつた血液が、循環してお腹の方にいくんですから、お腹を冷すわけになります。私はよく云ふんです。太股を出していけないのは、電車や汽車の中ばかりぢやないつてね、こうやつてしつかり冷えない様にしたら、掛けるものは極く少く、そして足の跣の方を少し出しておくんです。頭から足の先きまで布團をかけられちや、子供は實際たまらないでせう、はがすには居られなくなるのでせう。

その次の誘因は、疲れ過ぎ、

次に疫痢の始めの症状を申し上げます。よく私は、うき、ころころと申すんですがね、實際この病氣に罹るさ始めは何だかうきくしてゐます。そしてそつちの室の隅へ行つてごろ、こつちへ来てごろ、何もなく平常の様子に

異なるのです。それから之は變だと思つて頭へ手を當てゝ見るこゝ、熱い。計つて見るこゝ三十八度いくら、見る見る中に九度、四十度と昇るのがある。便は始めは軟便が出ます。汚い例へですけぎ牛の糞の様なのであります。それが段々悪くなつて緑便となり、中に白いブツブツの様なものが出る様になるこゝ之はいけなないのであります。それがもつこ悪くなるこゝ、水様便となり、粘液便となり、ひざいになるこゝヒキツケが來ます。實に見て居られないのであります。お母さん等は悲しんでおいゝ泣かれるのであります。このヒキツケが來た時氣をつけなければならぬのは、舌を噛み切らない様にする事です。で發作が起つて來たら、こりあへずハンカチでも何でもかまはないから口の中に差し込み、その中、鉛筆なりお箸なりにガゼの様なものを巻いて、前のハンカチを取り換へて口の中に入れておく事です、子供の便云ふものは大切なもので、毎日母親は細心の注意を以つて見る必要があります。いつも言ふのですが、子供の便は菜の花の様に黄色であつて欲しいので、菜の葉の様に綠色になつては困るのであります。

次にこの疫痢の豫防法を申し上げます。今迄のお話で大概の所は御諒解頂いた事と思ひますが

○過食をしないこと

○便通に注意すること

○買食ひ等しないのは勿論、子供の食物は細大こなく母親が親しく検査して後與へること

○腹巻をするこゝ

○日常母親の細心なる注意が肝要

そしてこの病氣に罹つたなら先づ第一に安靜が大事であります。私の知つてゐる人で、その一人つ子が、朝軟かい緑便をしたのにも拘らず、その日は日曜だったので、親子三人で井の頭公園に散歩に行きました。夕方何か食べて家へ歸

つた。ミところが夜中になつて、その子がうん／＼唸るので頭へ手を當て、見たら火の様に熱い、これは大變だミ云ふので、近所のかゝりつけのお醫者に來て貰つたら、疫痢ミ診斷され、ミても私の手には叶はないミ言はれたので、夜中でしたが直ぐ自動車で駿河臺の某小兒科の病院へ馳けつきましたが、病勢は愈々つのるばかりで、翌日の午後には亡くなつたのであります。そうでありませう。朝に綠便をしてゐるのであるから安靜にして置けばいいのに、一日井の頭公園を引つぱり廻つたのですからミてもたまつたもんじやありません、この病氣は心臟が侵され易いのですから安靜が第一なのであります。それから

この病氣だミ思つたら直ぐに頭ミ左の胸を冷す事です。水が無いからミ云つてそのまゝ放つて置かずに、直ぐに水でも何でもかまはないから冷すのです。水道の水であんまりぬるいミ思つたら、それへ鹽なり酢なりを入れて手早く冷して、そして氷の届くのを待つのです。日本の家庭ではあまり氷々ミ云ひますが、氷が無い時は水で結構です。氷が来るまでも十分、十五分ミ經つのですから、その間に病勢がぎん／＼進んでしまひます。その次には

ヒマシ油を飲ませるこゝ

ヒマシ油は三歳の子には茶匙で三ばい、四歳の子には四匙、五歳の子には五匙ミ言ふ見當で與へるのです。ヒマシ油は多くても害になるものでありませんから、躊躇せずと與へた方がいゝミ思ひます。今云つた分量の倍位與へてもよろしい、そして腸の中にあつて、熱を出させる悪いものをミつミ體外に出させるのであります。ヒマシ油を飲ませて三、四時間位で通じます。ヒマシ油はぎろ／＼してペンシミにはつたりしますので、飲み度がありませんから砂糖水に浮かしてグツト飲ませるミよろしい。コップ等の様に深いものでなく茶碗の方がミても試して見て、ヒマシ油の残りが少なくていゝ様です。若しミうしても嫌がつたら、強制執行です。こゝにいふ風にして頭部を高めにミして抱つこし、泣いてもかまはずに口の中へ

匙で入れるんです。するに泣きじやくりながらもいつかはなしに咽を通つてしまひます。

それから注意しなければならぬのは、これは變だと思つたり、出来るだけの手當をして靜かに寝かして置く事で、決して醫者へなご連れて行くものではありません。折角醫者へ行つても往診中云ふので次の醫者へ行く、又留守、云つた工合で、方々連れ歩いてゐる中に、病氣が進んで、取り返しのつかない事になつてしまふ事がよくあるのです。ですから母親が側に付きつきりで靜に寝かし、最善の手當をして居て、醫者へは他の人を走らせる云ふ風にするのです。

以上は疫癘を中心としての夏の病氣に就いてお話を申上げました。

次は夏の衛生云ふ事に就いて一寸お話致しませう。

夏は子供の皮膚を丈夫にする時であります。そうして冬の感冒を豫防すべき時期でありますから、出来るだけ日光に皮膚を照さなければなりません。併しそうか云つて急にやつてはいけません。段々に少しづつ多く皮膚を出す云ふ風にしなければいけません。皮膚が丈夫になれば、冬季、風邪に罹らなくなり、胃腸の粘膜も丈夫になります。東京の日光は、例の紫外線云ふのが少い、所に依つては二割以上も減じてる云はれてゐます。郊外の多摩川などは完全だ云はれてゐます。で私は出来るだけ郊外にピクニックをするこをお勧めして居ります。折角行つても向かふで料理屋へなんか行つたりして飲食しては駄目です。衛生上いけないばかりでなく經濟上もいけません。ピクニックはいくげにお金がかつて、云ふ風ではいけませんから、家でおむすびを作つて持つて行くのです。こうして出来るだけ數多く行く方がいいです。

その次に食物の事に就て、偏食は絶対にいけません。都會の子はあれも嫌や、これも嫌やで偏食の子が非常に多い。こ

うかして偏食はよませないものですね、子供は、親の云ふ事はなか／＼きかないが、学校の先生の言ふ事はよく聞くものですから、こゝを利用して先年、東京市の公立の小学校の先生方にお願して、これの矯正を試みた事がありました、よく徹底した所も少々はありましたが、仲々うまくいかないものですね。

その次には、手を綺麗にする事、子供の手は實に汚いものです。先きに言つた疫痢でもその他の病氣でも、實に手についてゐる微菌が口からは入つて起ることも多いのです。ですから食事の時、おやつなごの時は必ず手を洗つてから云ふ事を習慣づけ度いものです。水でじやぶ／＼洗つただけでもいいのですが、石鹼でよく洗へばかなりよろしい。尙ほこゝいふ消毒器（石鹼入れを利用して可）を子供に持たして食事をする前には必ず手を拭かせる様にし度いものです。この中にはアルコール又は石炭酸に浸した脱脂綿を入れて置きます。

次に、時間が迫りましたが、夏の問題として避暑の問題について簡單にお話致します。これからなるこゝよく電話で尋ねられるのですが、海へ行つたらよいか、山に行つたらよいかは問はれます。私はそゝいふ時は

體の弱い、神経質のお子さんには山がいゝし、元氣な、強いお子さんには海がいゝとお答へして居ります。

海に家を定める時に注意して頂き度い事は波の音の聞える所にしてはいけない云ふ事です。さうしてかこ云ひます、波の音の聞える所は子供の神経を勞する事が多いのです。夜中でも波の音が聞えるところは、なか／＼安眠が出来ない事が多いのであります。海水浴に出掛けるのに十分位かゝつて不自由でも、家は海岸からひつ込んでゝ欲しいものです。

それから次には、いろ／＼避暑に参りましたら、一週間位の間は朝に夕によく注意して、子供の様子を見る事です。食事が進むか否か、元氣に變りはないか否か、こゝ云ふ事なごを。

それから井戸水に注意すること。井戸は自分の借りた家の専用でなければなりません。又流しを井戸から出来る丈遠く離す云ふ事等も氣をつけなければならぬ事です。

それから泳ぐ場所を川口から遠ざける云ふ事。川口は危いばかりでなく、種々のものが流れて来るので實に不潔であります。

次には、醫者の不便な所に行つてはならない。醫者の不便な所に行つて、取り返しつかない目に遭つた人の例は、隨分澤山あります。

それから、出掛ける時には應急手當に入必要な品々を持つて行く云ふ事を忘れてはいけません。例へば氷嚢とか體溫計、ヒマシ油、浣腸器、含嗽藥等を持つて行くこと。そうして醫者の来る迄に應急の手當てが出来る様にして置かなければなりません。

吉備保育會夏期講習會

今夏左記の通り岡山市に於て保育講習會が開催せられます。詳細は同市深抵幼稚園内吉備保育會事務所宛問ひ合をされたし。

期日 八月四、五、六日三日間 午前八時より午後四時まで

場所 岡山市就實高等女學校講堂

講師

幼兒教育本論

幼兒に適切なる遊戯

倉 橋 惣 三氏

戸 倉 ハ ル氏